

常照

第785号

このこと「一つに出逢う①」

一をもって止む

私たち真宗門徒は、朝夕に「正信偈」をお勤めしています。この「正信偈」の「正信」というのは、正しい信心ということですが、蓮如上人の『正信偈大意』の冒頭に「『正』というは、傍に対し、邪に対し、雑に對することば

なり」とあります。「正信」に対し「傍信」「邪信」「雑信」があるということです。「傍信」とは、傍らの信心ということです。これは、その時その場だけの信心であり、生活全体が、お念佛の中で生きていないということ、つまり生活の一部分としての信心です。私があるご門徒の家へ久しぶりにお参りに行った時のことです。お勤めをしようと思ったら撥（ばち）がありません。ご主人に尋ねると、逆にこの前のお参りの時にどこに置いたか、と聞き直されました。数か月ぶりのお参りでしたので、その家ではその間、一度もお参

りしていなかったということです。

まさにお勤めしている時だけ、その場だけの信心になっていると思いませんか？

次に「邪信」というのは、自分の思いを満たすための信心であり、自我拡大のための信心です。それは、俺が俺がと、自分の思いを満たすような信心になってはいないでしょうか？

つまり、これを私たちの罪福信を煽り立てるような信心だと言えます。

そして「雑信」ですが、ある方が「雑信の雑は雑巾の雑」だとおっしゃられました。雑巾一つあれば、机の上や畳

の上、時には自分の足の裏も拭けるし、そして洗い直しては何度でも使えます。つまり、「雑信」というのは、あれやこれやの多目的な信心です。病気を治すためや、交通安全のため、また長生きするためにお参りをする、非常に多目的な心です。

これらの傍・邪・雑に対する「正」とは、その場だけでなく、また自分の都合による多目的な信心ではないということです。この「正」の字の成り立ちから考えますと「一をもって止む」です。これは、「このこと一つに止まる」という、本当の個の尊厳として、他と

比べる必要のない「独立者としてのいのち」を賜るということなのです。

おそ
畏れ無き生活を

「正信偈」の中に「邪見憍慢惡衆生」とあります。慢というのは、他と比べる心のことを現します。他の人と比べて、自分の幸せを感じていませんか？。私たちは、その比べてしまっている心が悪であるということに気づいていません。私たちは日常的にそういう生き方を平気でしていませんか？。いつでも他と比較して、喜びや悲しみを感じているとすれば、

まさに私たちは、「邪見憍慢惡衆生」ということでしょう。

この比べてしまう私たちに対して、「独立者としてのいのち」を賜るということは、それは「無畏（むい）の生活」ということです。私たちはいつでも、こんなことをしたら罰が当たるとか、よくないことが起こるとか、そういう畏れから逃れるために信心を利用しようとしています。つまり、「無畏の生活」とは、私は私で良かったと言える、他と比べる必要のない人生を賜ることということです。

（常照次号へつづく）



仏教に聞く 人生教養講座
**あなたが
あなたのままで輝くための
ほんの少しの心がけ**

講師：英 月(Eigetu)師 京都 真宗佛光寺派 大行寺住職

日時：2019(令和元)年6月25日(火) PM14:00～15:30

会場：専名寺本堂 小樽市奥沢1丁目15-11 TEL0134-22-4409

会費：無 料 皆さんのご来聴をお待ちしております！

主催：真宗教団連合小樽支部・常照会

発行所

☎047-0017

小樽市若松一丁目四番十七号
本願寺小樽別院
電話 (011) 34-2211
FAX (011) 34-2211
テレホン法話 (011) 34-2211
二九一四〇八番
二七一六番

六月の常例布教(こ法話)のご案内

○前期 六月七日(金)～十一日(火)

山陰教区 鹿足組 妙壽寺

講師 村上 元 師

○後期 六月十三日(木)～十六日(日)

北海道教区 札幌組 覺英寺

講師 黒田 顕 城 師

○場所 小樽別院内

○時間 午後二時(法要終了後)～午後三時半

○浄土真宗のみ教えについて布教使にこ法話を
して頂きます。

どうぞお誘い合わせいただき、ご聴聞に来院
くださいますよう、お待ちしております。